



平成 24 年 10 月 18 日

各 位

上場会社名 s a n t e c 株式会社
代表者 代表取締役社長 鄭 台 鎬
(コード番号: 6 7 7 7)
問合せ先責任者 業務部管理グループ長 水島 大介
(TEL 0568-79-3572)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年 5 月 11 日に公表した平成 25 年 3 月期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成 25 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値の修正 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日)
(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,234	△138	△122	△130	円 銭 △10.87
今 回 修 正 予 想 (B)	889	△207	△208	△216	△18.13
増 減 額 (B - A)	△344	△69	△86	△86	-
増 減 率 (%)	△27.9	-	-	-	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 3 月期第 2 四半期)	1,159	△144	△219	△137	△11.50

平成 25 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,045	125	135	120	円 銭 10.03
今 回 修 正 予 想 (B)	2,484	5	25	15	1.25
増 減 額 (B - A)	△561	△120	△110	△105	-
増 減 率 (%)	△18.4	△96.0	△81.5	△87.5	-
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 3 月期)	2,510	△108	△110	104	8.76

平成 25 年 3 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）
（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,151	△148	△153	円 銭 △12.79
今 回 修 正 予 想 (B)	839	△206	△215	△17.99
増 減 額 (B - A)	△311	△58	△62	-
増 減 率 (%)	△27.1	-	-	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 3 月期第 2 四半期)	1,096	△237	△153	△12.86

平成 25 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）
（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,861	63	52	円 銭 4.35
今 回 修 正 予 想 (B)	2,312	△35	△40	△3.34
増 減 額 (B - A)	△549	△98	△92	-
増 減 率 (%)	△19.2	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 3 月期)	2,374	△153	45	3.82

修正の理由

光部品関連事業につきましては、特にモバイル通信市場で、LTE (Long Term Evolution。第 3.9 世代移動通信システムのひとつで、超高速のデータ通信を実現する規格) の普及本格化を前に、通信キャリアの設備投資が無線基地局増強に偏る傾向が一層強まり、データ通信網への投資が抑制されました。その結果、基幹ネットワークに用いられる光部品製品の売上が当初予想を下回ることとなりました。

光測定器関連事業につきましては、当事業年度は、新興国での光部品の生産は底堅く、その結果として、生産工程向け光測定器製品の需要は堅調に推移すると見込んでおりました。しかしながら、中国をはじめとする新興国の成長鈍化を背景に、生産工程向け設備投資は冷え込み、当社の光測定器製品の売上に影響いたしました。

さらに、ソフトウェアサービス販売を手がけるシステム・ソリューション事業においても、景気減退を背景に、利用数量を削減するお客様が増えております。

このような市場環境を背景に、当第 2 四半期連結累計期間の連結売上高は、当初予想を大幅に下回る見通しとなり、利益についても同様となりました。

当社グループにおきましては、前述のような市場環境は下期も継続すると判断し、通期の連

結業績予想値についても修正いたしました。売上高は前回発表数値に比して18.4%の減少となりますが、原価及び経費節減努力により、営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも黒字となる見通しです。

個別業績予想の修正理由につきましては、連結業績予想の修正と同様であります。

配当予想につきましては、修正を行わず、期末3円、通期3円の見通しを維持する方針であります。

なお、このような業績見通しとなったことの責任を明らかとするため、当社の取締役会は、取締役報酬の追加減額を決定いたしました。この結果、取締役報酬の減額率は、月額ベースで最大30%となっております。

当社グループでは、7月末から10月にかけて、相次いで新製品を発表いたしました。これらはいずれも、主力製品のメジャーバージョンアップであり、発表と同時に多くの反響をいただいております。これらの新製品について、一日も早く大きな成果に結びつけるべく取組みを行ってまいります。

(注) 本発表における各種予想数値は、本資料の発表日時点で入手可能な情報を元に作成したものであります。実際の業績値は、今後様々な要因によって、本予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上